

阿蘇の素晴らしさを、阿蘇の人に知ってもらう、阿蘇の人のための情報紙。

since 2012

aso lulu 【アソルル】

lulu(ルル)=素晴らしい魅力という意味。



vol. 19  
2019

FREE

めくるめく阿蘇の魅力



ASO  
REPORT



登山アウトドア向けアプリ・WEBサービス

公益財団法人

# YAMAP × 阿蘇 DC



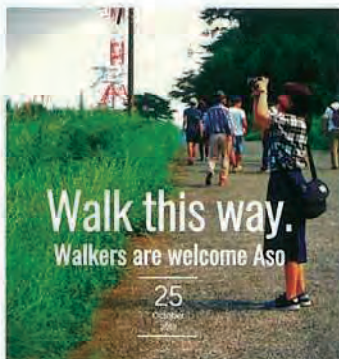
登山アプリ No.1の  
YAMAPを取り入れた  
新たな歩きの楽しみ方!  
がはじまります。

平成30年10月25日  
包括協定締結式が  
南小国町役場きよらホールで  
開催されました。

登山アウトドア向けアプリ・WEBサービス「YAMAP」は  
公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターと  
包括協定を締結!



☆ START !! ☆



登山アウトドア向けアプリやWEBサービスで全国の登山情報やコミュニティー手段を持つ「ヤママップ」と阿蘇地域振興デザインセンターがタッグを組むことで、阿蘇をモチーフにこれまでにない阿蘇ならではの登山やアウトドアのあり方について熱く話し合われました。雄大な阿蘇の魅力を最大限に活かせる新たな観光を目指した取り組みがスタートします!





すべてはあなたの登山のために/  
YAMAPの三大機能

① 安全

あなたのスマホが登山でも使える  
GPS機器に大変身!



YAMAPアプリの地図を使えば、携帯の電波が届かない山の中でも、現在位置を確認できます。

② 快適

紙でもスマホでも使える  
ハイブリッド地図!



YAMAPの地図は紙に印刷することもできます。回数に制限なく、ダウンロードが可能です。

③ 共有

旅アルバムとして経験や思い出を  
保存・共有!



ルートや距離、活動時間、写真など大切な記録を簡単に保存・共有することができます。



包括協定  
締結式での  
お話し。

阿蘇が日本のロールモデルとなる  
ような取り組みをしていきたい!



南小国町長  
(公財)阿蘇地域振興デザインセンター理事長  
高橋 周二

携帯の電波の届かない山の中で地図を見れるというのがヤママップの特徴。2013年3月にリリースされ、今では122万ダウンロードを超えている(2019年3月現在)。ヤママップを通して登山・アウトドアを盛り上げたいだけでなく、自然に触れる機会を増やしたい。インバウンドで来られるお客様にも地域の自然に触れていただき、滞在する観光をヤママップを通して増やしていきたい。



ヤママップと協定を組むことで  
情報を直に発信できる!

株式会社ヤママップ 代表取締役  
春山 慶彦 氏

阿蘇には自然資源が豊富、阿蘇カルデラと共に暮らしてきた文化は世界に通じるものがある。具体的にはまず、フットパスから連携していきたい。ヤママップで地図を作成し、そのデータを利用者に還元する。これは一つのモデルケースであるため、様々なご意見をいただきたい。自分たちが楽しめる観光を作っていきたい。



阿蘇エリアにおけるフットパスの概況

阿蘇エリアでは、世界農業遺産に登録された1,000年の歴史や文化、自然の営みに触れながらゆっくりと楽しめるフットパスを整えてきました。阿蘇DCはこのフットパスを通して、観光客に阿蘇エリア(8市町村)の店舗や施設に実際に足を運んでもらうことを目指していますが、認知の拡大に課題を抱えていました。そこで、ユーザー数No.1の登山アプリ「YAMAP」を活用して、フットパスの知名度向上と利用促進を図ることとなりました。今後は、フットパス13コースの地図を用意し、認知拡大を目指します。



フットパスとは? - Foot! and Path! -

「フットパス」とは、イギリスで発祥した『地域に残るありのままの風景を楽しみながら歩くこと「Foot」ができる小径(こみち)「Path」』のことです。イギリスでは農村部を中心に網の目のように張り巡らされており、長いものでは160kmも続くものもあります。川岸や丘はもちろん、農場や自宅の敷地内を通る道もあり、英国ではフットパスを大切にす文化が根付いています。





## 4Hクラブ紹介

4Hクラブとは…

若い農業者が中心となって、農業経営の身近な課題や解決方法を検討したり、より良い技術を検討するためのプロジェクト活動を中心に、日本や世界で貢献できる農業者になることを目指すのが、4Hクラブ(青年農業者クラブ)です。



会員数(H30現在)15名

こんにちは。阿蘇地方青年農業者クラブ会長の下城亮輔です。南小国町でシイタケ(原木)を栽培しています。

阿蘇地方青年農業者クラブ連絡協議会は阿蘇市4HC・南阿蘇4HC・小国郷4HCで構成されており、若手の農業者が学べる、実践のできる会を目指しております。今年度も自分の経営を考えるプロジェクト活動を行いました。このプロジェクト活動は、来年の営農に活かすために毎年取り組んでいます。他にも、若手農業者による6次産業化・商品開発事業などを進めております。

阿蘇管内の新規就農者もクラブに入会しておりますので、ご興味のある方、何を学ぶべきか迷ったときは一声おかけください！一緒に阿蘇、熊本を盛り上げましょう！

阿蘇の若者が育てた野菜を加工し、阿蘇の草原の味を表現したドレッシングも開発中!



下城 亮輔

### 【主な行事】

- 4月 阿蘇地方4Hクラブ総会
- 8月 プロジェクト初期検討会
- 8月 夏の集い
- 10月 プロジェクト中間検討会
- 11月 研修会(視察等)
- 12月 地方青年農業者会議
- 1月 ニューファーマー激励会
- 2月 県青年農業者会議

## 阿蘇地域振興デザインセンター ロゴマークが決定しました!

当財団の事業の周知と、阿蘇地域の振興に対する機運の醸成のため、当財団のシンボルとなるロゴマークを募集したところ、全国から122点の応募をいただきました。そこで、デザイナーや美術関係者などの有識者を交えてその120点を超える作品の中から、当財団のロゴマークを選定しました。



審査会の様子



新ロゴマーク

この作品は、岡山県の白澤里菜 様がデザインしたもので、阿蘇の山々とミヤマキリシマが意匠に込められています。これから見かけることがありましたら、阿蘇地域振興デザインセンター共々よろしくお願ひします。なお、今回の受賞は下記のとおりです。

- ◆ 最優秀賞 白澤 里菜 様(岡山県立岡山工業高等学校)
- ◆ 優秀賞 田中 康夫 様(京都府 京丹後市)
- ◆ 佳作 池田 克也 様(埼玉県 狭山市)  
寺尾 弘 様(大阪府 吹田市)

たくさんのご応募ありがとうございました





SAKURA QUALITY とは…

一般社団法人の観光品質認証協会(東京・千代田)が設けた基準で、世界中の旅行者に、日本のホテルや旅館の質の高い観光サービスに関する情報提供を行い、安心して快適な旅行を楽しんでいただくための仕組みです。一定の品質基準を満たし、厳正な審査を経た宿泊施設が認証を得ることができます。



### 木魂館 Mokkonkan

全館 free-wifi 完備

シンボリックな外観と、木材に囲まれた内装。森の中の静寂が部屋の中にもあります。敷地内には、阿蘇のあか牛を使った料理を提供するレストランと、大浴場を備えた温泉があります。



熊本県阿蘇郡小国町北里371-1  
TEL.0967-46-5560  
FAX.0967-46-5561  
<http://manabiyanosato.or.jp>

●平常期の大人1人1泊当たり料金  
3,850円(室料のみ)



### 米屋別荘 Komeya Bessou

味と心 源泉かけ流しの宿

杖立川の湖畔に座す天保14年(1843年)創業の老舗旅館。古風な佇まいのなかに遊び心をちりばめた、大人の休日を楽しめる宿です。一期一会を大切に、季節の食材を使った料理もお楽しみください。



熊本県阿蘇郡小国町下城4162-4  
TEL.0967-48-0507  
FAX.0967-48-0648  
<http://www.komeyabessou.jp>

●平常期の大人1人1泊当たり料金  
1泊2食付 15,000円(税別)~23,000円(税別)



### なみの高原 やすらぎ交流館

Namino Plateau Yasuragi Recreation and Rest Center

Stay at elementary school (懐かしい小学校に泊まります)

「大人も子どもも、よく遊び、よく学べ」廃校となった小学校を改築した宿泊施設です。そば打ち体験や、ツリークライミングなど、様々な体験プログラムがあります。



熊本県阿蘇市波野大字小地野663-1  
TEL.0967-23-0555  
FAX.0967-23-0556  
<http://www.aso-yasuragi.com>

●平常期の大人1人1泊当たり料金  
3,675円(室料のみ)



### 阿蘇 森の駅 どんぐり Aso Morinoeki Donguri

森の中の隠れ家で過ごす非日常

外輪山の麓、静寂に鳥の音が響くなかに佇む古民家。昔の農家の面影を残す一日一組限定の宿。私たちの“ふるさと”は昔のまま。心を癒す温泉と、懐かしい母の味が此処にあります。



熊本県阿蘇市一の宮町手野2609  
TEL&FAX.0967-22-5539  
<http://asodonguri.jugem.jp/>

●平常期の大人1人1泊当たり料金  
1泊2食付 8,925円~13,650円



### 旅館 壺の井 Ryokan Ichinoin

湯の華の浮く良質硫黄温泉

黒川温泉中心部から歩いて7分。静かな田園風景と山間の自然に囲まれた宿舎です。滑らかな硫黄泉の露天風呂と、鳥のさえずりが聞こえる客室。ゆったりとしたひと時を堪能ください。



熊本県阿蘇郡南小国町大字満願寺黒川6630-1  
TEL.0967-44-0881  
FAX.0967-44-0896  
<https://www.ichinoin.jp>

●平常期の大人1人1泊当たり料金  
1泊2食付 14,000円~20,000円



### 阿蘇白水温泉 瑠璃 aso hakusui onsen ruri

開放感溢れる湯宿

人々の声が飛び交う大浴場。開放感あふれる宿泊施設。阿蘇の名水と地元の食材を使った御料理。人と温泉と御料理。堅苦しさは抜きで。南阿蘇の“ごちそう”を堪能ください。



熊本県阿蘇郡南阿蘇村一関1260-1  
TEL.0967-62-9999  
FAX.0967-62-9598  
<https://ruri.aso-hakusui.com/>

●平常期の大人1人1泊当たり料金  
1泊2食付 9,500円~14,900円



### 南阿蘇 久木野温泉 四季の森 Shikino Mori

All rooms overlook Mount Aso

阿蘇五岳を望む客室。やわらかな泉質と雄大な眺望で人気の温泉。南阿蘇で採れた旬の食材を用いた料理。千紫万紅、四季折々の南阿蘇が楽しめる宿です。



熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石3160  
TEL.0967-67-2212  
FAX.0967-67-2200  
<https://aso-shikinomori.com/>

●平常期の大人1人1泊当たり料金  
1泊2食付 9,950円~15,450円

### 平成29年度 SAKURA QUALITY 認証施設

アーデンホテル阿蘇	離れの宿 神隠れ
阿蘇乃やまぼうし	旅館 みな和
御客屋	旅館わかば
宿房翡翠之庄 The kingfisher resort	旅館 山河
親和苑	旅館 竹楽亭
蘇山郷	豊礼の湯宿
湯の宿 入船	民宿 まろうど
湯巡追荘	



# 阿蘇地域元気再生支援事業

## 1 阿蘇市

### 農業体験イベント実施事業

事業実施主体／阿蘇草原再生シール生産者の会 会長 市原啓吉  
実施場所／阿蘇市一の宮坂梨地区  
期日／平成30年7月28日、10月13日

地トウキビの播種と収穫を体験し、阿蘇の野菜を食すことで、阿蘇地域の農産物の消費拡大を図りました。



### ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り2018

事業実施主体／坂梨子ども会 会長 坂本智之  
実施場所／日本青年館ホール(東京都)  
期日／平成30年8月30日

阿蘇市一の宮坂梨地区の子ども達が受け継いできた“虎舞”を、東京都で行われるイベントで披露しました。



### 門前町商店街滞在促進対策事業

事業実施主体／(一社)阿蘇門前町商店街振興協会 理事長 杉本真也  
実施場所／門前町商店街(阿蘇市一の宮)  
期日／平成30年11月30日～平成31年3月31日

門前町の街歩き活性化のため、着物や番傘などのレンタルを行い、滞在時間の延長を図りました。



## 8 西原村

### 西原復興夏祭り

事業実施主体／西原村商工会青年部 部長 小城要一郎  
実施場所／阿蘇ミルク牧場  
期日／平成30年8月25日

西原村の村民の復興への機運を向上させると共に、村外に対しても復興をPRするためのイベントを開催しました。



### 南阿蘇村「宙ツーリズム」受入環境整備事業

事業実施主体／南阿蘇村観光復興プロジェクト 交流協議会 執行代表 河津誠  
実施場所／南阿蘇村池ノ窪地  
期日／平成30年7月20日～平成31年3月31日

南阿蘇ブランドを体感できる「宙ツーリズム」の受入れ環境を整備しました。



### 地球元気村in南阿蘇

事業実施主体／(一社)みなみあそ村観光協会  
実施場所／久木野キャンプ場  
期日／平成30年11月23日

村内外の子供たちにこれまで経験した事のない田舎ならではの自然体験をしてもらいました。



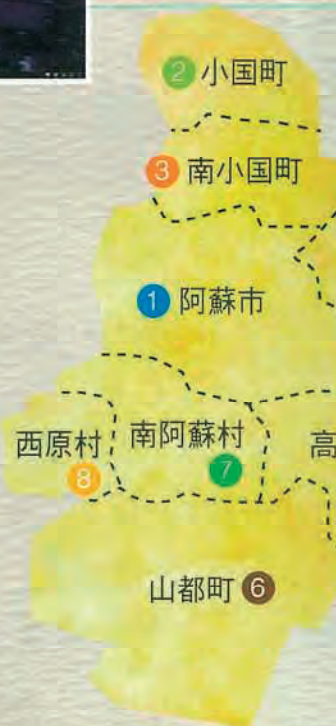
### 小国ロギングワーカー 動画(PV)制作事業

事業実施主体／小国町森林組合 代表理事組合長 時松昭弘  
実施場所／小国町一円  
期日／平成30年9月1日～平成31年2月28日

林業の担い手確保のため、林業の魅力を紹介する動画を制作し、WEB上で発信しました。



## 2 小国町



## 7 南阿蘇村



阿蘇地域元気再生支援事業とは…

阿蘇地域振興デザインセンターでは、その地域独自の資源を活かした取組みや、伝統行事再生に向けた試み、地域に根差したイベントの実施、熊本地震からの復興に向けた活動など、魅力ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目的とした事業に対して助成を行っていました。

3 南小国町

甲の瀬音楽祭

事業実施主体 / 甲の瀬キャンプ村(甲の瀬音楽祭実行委員会)  
代表 井上則臣  
実施場所 / 甲の瀬キャンプ村  
期日 / 平成30年9月22日～9月24日

音楽を通して阿蘇地域の自然と文化を伝えていきました。



観光客動向調査

事業実施主体 / 黒川温泉旅館協同組合  
代表理事 北里有紀  
実施場所 / 黒川温泉  
期日 / 平成30年9月19日

黒川温泉における観光客の動向を調査し、天候や時期、ピークタイムなどの傾向を分析し、地域全体で共有しました。



地域の米の美味しさを伝えるイベント「米Fes」の実施

事業実施主体 / 波居原再発掘評議会  
代表 高村秀明  
実施場所 / 波居原体育館横の日野さんの田んぼ  
期日 / 平成30年11月4日

南小国町の米や農産物の美味しさを伝えるイベントを実施しました。



4 産山村

「池山の泉」設置整備事業

事業実施主体 / 産山村観光協会 会長 井博明  
実施場所 / 産山村田尻地区  
期日 / 平成30年1月～平成31年3月末

池山水源を訪れる観光客を田尻地区に誘引するための景観造成を行いました。

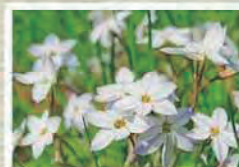


5 高森町

第4回 野の花ピエントコンサート

事業実施主体 / 環境省自然保護指導員  
阿蘇協議会 会長 山村将護  
実施場所 / 月廻り公園  
期日 / 平成30年6月9日

自然保護の重要性を知ってもらうためのコンサートを開催しました。



6 山都町

蘇ジョレーヌーボーとあか牛まつり

事業実施主体 / 蘇ジョレーヌーボーとあか牛まつり  
実行委員会 委員長 深瀬俊一  
実施場所 / そよ風パーク芝生広場  
期日 / 平成30年10月28日

阿蘇地域の特産品である「あか牛」と山都町の特産である「ブルーベリー・ワイン」の消費拡大のためのイベントを開催しました。



第31回 新酒とふるさとの味まつり  
オープニングセレモニー

事業実施主体 / 高森町観光協会  
会長 後藤巖  
実施場所 / 高森町観光交流センター  
期日 / 平成31年2月10日

高森町の特産品の消費拡大と、観光客の誘客を促進するためのキャンペーンを開催し、そのスタートダッシュイベントを行いました。



産山村 4

森町 5



# 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは…

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方に置いて、地方自治体の募集に応じて委嘱を受け、国から生活費などの支援を受けながら期間中は地方に移り住み、住民の生活支援や地域の活性化などに取り組み活動をする人のことを言います。



## 南小国町

TAIKI  
\\ WATANABE //

自分の手を動かして自分の  
欲しいものを得る体験を増やしたい

南小国町 地域おこし協力隊  
渡辺 大樹  
(福岡県出身)



東京・福岡で小学生からベンチャー企業まで、様々な「ものづくり」を技術的に支援してきました。

南小国町は、250年以上前から続く林業が根付く町です。かつては建材需要の伸びにより活況を呈しましたが、輸入材や新築着工の減少などに押され、新たな展開を模索する時期にきています。

南小国町では、林業と、町内外の農業・観光業を組み合わせた、新たな展開と活性化を目指して木材拠点施設(通称・ファブラボ阿蘇南小国)を設置しています。

当施設では、町内の製材所へ出た無垢材の端材や積層板などを使用し、温泉手形やお土産品、木育事業の教材開発や、小中学生に向けたワークショップを行っています。

小国杉の育成、伐採から製材、制作まで目の届く範囲で完結できるのが最大の魅力であり、生み出される製品の魅力にも繋がっています。また、制作時に出た木片などは、再度製材所へ持って行き、ボイラーの燃料として活用しています。

今後は利用者がそれぞれの要望に合った家具や小物を簡単に設計し、制作できる環境を整え、体験の一環として観光業とも協業していかれたらと考えています。



## 南阿蘇村

地域おこし協力隊の目線から見た  
地域の魅力について

南阿蘇村役場 政策企画課  
「情報収集及び発信プロジェクト業務」  
五十嵐 恵美  
(神奈川県川崎市出身)

EMI  
\\ IGARASHI //



南阿蘇村は阿蘇カルデラの南部、阿蘇五岳と外輪山に挟まれ、他に類をみない見渡す限り360度山に囲まれた村で、全国名水百選に選定された「白川水源」をはじめ、村内には11ヶ所も水源があり「水の生まれる里」としても有名です。

昼夜の寒暖差や年間雨量が平均2300ミリという恵まれた気候から、トマトやアスパラガス、イチゴ、あか牛など良質な農畜産物が生産され、山コン(山で婚活)やツリーイング、トレッキングなど自然を活かしたアウトドアイベントが人気の農業と観光の村です。

## 小国町

MINAKO  
\\ YAMAMOTO //

「小国食の学校」を  
通じて

小国町地域おこし協力隊  
山本 美奈子



小国町に移住してきて早3年。故郷の福岡にいた頃から、「食」に関わる活動をしてきた私にとって、小国町はまさに「食の宝庫」でした。

まず、食材がすごい。自然の四季の中で栽培された野菜たちは、色鮮やかで味が濃く甘い。我が家の前には天然蒸気の「蒸し場」があるのですが、野菜は下手に調理するより、この「蒸し場」でさっと蒸して食べるのが一番美味しい。おかげで、この3年ですっかり料理の腕が落ちてしまいました(笑)。

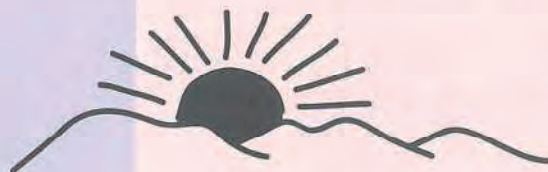
そして、それらを創り出す生産者や魅力を最大限に引き出す職人たちの存在。小国には、実はすごい人たちが沢山いるのです。

そんな「食」や「食の職人」にもっとスポットを当てたいと、昨年より実施してきたのが「小国食の学校」でした。小国の食材を活かし、小国の職人たちが講師となり、小国の人たちに伝える。ここで伝授するのはただのレシピではなく「小国の食」そのもの。

2年で12名の「講師」と100名以上の受講生が誕生。これからは、このネットワークが「小国の食」の発信源になればと思います。まだまだ沢山眠っている「小国の食」という宝物。もっともっと発掘し、磨き上げ、その光が町をより明るく照らしてくれるものと信じています。







## 産山村

HIROKI  
\\ HORIE //

地域おこし協力隊の  
目線から見た  
地域の魅力について

産山村地域おこし協力隊  
堀江 宏喜



昨年1月、産山村に住み始めてほんの数日のこと、農家さんなど、村の有志が野菜などを持ち寄って、お食事会が催されました。そのときにいただいた椎茸と小松菜が、それまでスーパーで買って食べていた野菜とは、甘み、香り、歯ごたえなど別物で驚きました。そのような食の感動体験を重ねるにつれ、オーガニック食品の店などは、都市部だからこそ必要なのだと感じるようになりました。ここにはわざわざ探し求めなくても、元気の出る食材が、隣近所にいちばんいい状態で普通に存在します。

また、産山村では、暮らしや仕事に必要な道具を、その場に自然にあるもので手づくりし、不便を軽減してきた、モノがない時代の暮らしの知恵やスピリットが今も消えずに現役で生きているところも大きな魅力です。

産山独特の美しい火断ち棒や、田植えなどの作業時に重宝する、農業資材の空袋で作った肩掛けバッグなど、ご年配の働き盛りの思いがけない魅力的な手仕事によく出会いました。

このような、都市部では既に失われてしまった魅力が、産山にはまだまだ生きています。



## 高森町

MAYUKO  
\\ SOMETA //

トロッコ列車に向かって  
手を振る住民の姿が  
最高の思い出に!

高森町地域おこし協力隊  
染田 麻弓子  
(宮崎県東臼杵郡門川町)



峠の長いトンネルを抜けると、そこは雪国であった……。

昨年春、宮崎出身である私の高森の第一印象です。雪を冠した阿蘇山は朝日で赤く燃え、根子岳の険しい岩場が見せる光と影の表情は神々しく、薄く靄のかかった静謐な朝の空気を頬に感じれば、もう思わず手を合わせてしまいそう。霊山として信仰の対象であったというのも納得です。

宮崎人にとって高森町はまさに阿蘇の玄関口。でもただの玄関口ではありません。湧き出る阿蘇の水を利用したおいしいお酒や醤油、豆腐。根子岳を望む温泉に、田楽や地鶏など寒冷地方ならではの田舎文化。なにより、観光客を自然と受け入れる住民たちのおおらかさ、と魅力満載です。

私が勤める南阿蘇鉄道は、高森駅を始発・終点とし、地震前はJRに接続し熊本市内と南阿蘇地域をつなぐ重要な交通機関でした。春から秋にかけて運行するトロッコ列車は、立野溪谷にかかる橋からの景観が素晴らしい、と観光客に大人気!現在は震災の影響で高森～中松間の部分運行している状況で、立野溪谷も通れませんが、変わらない魅力があります。それは車窓に向かって手を振る住民との一瞬の交流。農作業中、踏切待ち、自宅の縁側から、手を止め、顔を上げ列車に向けてくれる笑顔は、私が大好きな南鉄ならではの景観です。きっと、旅の素敵な思い出になりますよ。



また、車で熊本空港まで約30分、熊本市内までも約1時間と交通の便が良いのも特徴です。

担当している「情報収集及び発信プロジェクト業務」では、フォトグラファーの経験を活かし、四季折々の景色や祭りなどの伝統行事の撮影、農家さんやお店の取材などを行い、主に南阿蘇村公式フェイスブックとインスタグラムにて、村の魅力をリアルタイムで発信しています。

個性豊かで温かい人々が暮らす南阿蘇村は、景観と共に村民が宝として世界にも誇れる村だと思っています。今後も南阿蘇村の素晴らしさをお伝えできるようアピールしていきます。





## 西原村

KAZUO  
YOSHIMARU //



1日でも早い  
復旧・復興に向け  
一致団結

西原村地域おこし協力隊  
吉丸 和男

西原村の地域おこし協力隊として復興推進課に配属されました。熊本・大分地震が発生して間もなく3年経とうとしている中、一致団結し、一日でも早い復旧・復興に向けて頑張っている村、西原村。この村で、西原村に住んでいる地域住民のみなさんは、自らのかけがえのない復興を目指して頑張られています。震災の影響で急激に過疎化していく地区と急激に増えてしまった地区が、今後どのような取り組みをしていくのか、試行錯誤しているところです。西原村の魅力は、すぐに目につく自然。当たり前のように流れているきれいな川。見事な飛沫を上げている立派な滝。みんなの通る道路の草木の管理は品評会が行われ、管理する区ごとに競い合い「よその区には負けれんバイ!!」と気合を入れています。雄大な原野が広がる俵山。そこに広がる原野は未来永劫に渡って管理していくために、みんなが団結し野焼き等を行い整備されている。そこにドーンと鎮座する見る者を圧巻させるでっかい風車、風力発電ウインドファーム。西原村はからいも(甘藷)が特産ですが、芋掘りをする様子は見事の一言。西原村は掘れば掘るほど魅力が出てくる、そんな土地です。西原村で外せない魅力は人、村民の人柄。当たり前のように皆さんは接していただけますが、これだけ受け入れが早く、且つ、馴染ませてもらえる地域はないんじゃないでしょうか?これが受援力の高さというものでしょうか?



## 山都町

YAMATO  
MAEJIMA //



各事業者や施設が  
直接、情報発信を  
行えるようにしたい

商工観光  
前島 大和(奄美大島出身)  
山都町協力隊員前は6年間海外に拠点を置く

山都町は2005年の3町村(旧矢部町、旧清和村、旧蘇陽町)合併からなる、熊本県の市町村で3番目に大きな面積を誇る自然豊かな町です。有機農業が盛んで、九州の中でも有機農業者が多い地域でもあり、美味しい野菜が年中栽培されています。また、町には70近く滝があるとされていて、中には「五老ヶ滝」など迫力満点の滝もあり、滝を巡るツアーなどでも楽しめます。現在の主な活動は、こうした町の魅力を町外に積極的に発信するため、「情報発信」の強化に取り組んでいます。町唯一のIT企業協力のもと、地方でも気軽にHPを作れるサービスを提供し、各事業者、各施設から直接町外に情報発信を行っていくのが狙いです。すでに、町内で10件ほどの実績も出ており、今後も数を増やして町外にもっと山都町の魅力を発信し、山都町の認知向上を目指しています。他にも、地域行事へ積極的に参加し、地域住民と一緒に新しい企画なども考えたり、海外に住んでいた経験を活かし、いろんな国の知人を通して、海外からも山都町に来てもらう取り組みなども進めていきたいと思っています。



## 阿蘇市

私は阿蘇市に  
移住して  
きました

KEISUKE  
ISHIGAKI //



空き家と移住希望者の  
繋ぎ役になりたい

合同会社阿蘇人  
代表 石垣 圭佑



私は熊本地震のボランティアがきっかけで、2016年5月に初めて九州、初めて阿蘇に来ました。やまびこ号に乗って二重の峠を越えて見た、風になびく草原、外輪山の中に広がるカルデラの情景は今でも忘れられません。そして、ボランティアを通して阿蘇に暮らす人たちの温かさに触れるうちに、どんどん阿蘇が好きになっていきました。自然と人が共存し、都会では味わうことのできない阿蘇ならではの「豊かな暮らし」や「可能性」に多くの移住者が惹かれているのだと思います。阿蘇地域は熊本地震の影響などもあり「住まい」が足りていません。現在も仮設住宅、みなし仮設に住んでいる方がいます。阿蘇地域に移住したいけど住まいがないから、近隣の地域に住んでいる方もいます。ちょっと片付けと掃除をすれば、住むことのできる空き家は存在しているのに、これが、ただただ、もったいない! 住まいの整備は、阿蘇への移住者・Uターンの増加へつながっていると思いますので、阿蘇での『豊かな暮らしの可能性』を感じてもらえるような発信をしながら、空き家と阿蘇への移住希望者の繋ぎ役を行うことで、阿蘇の課題解決の力になればと思います。



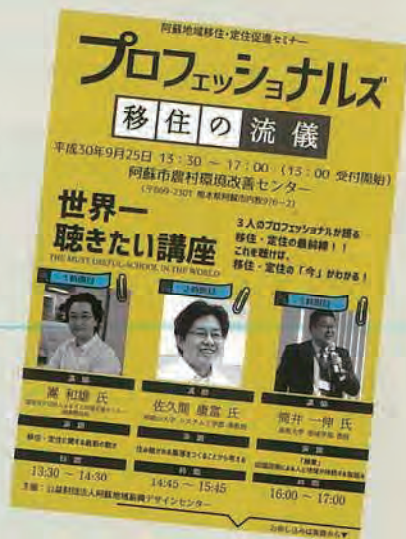


# 移住定住研修会・人材育成セミナー

## 1 「地方移住の現状」

講師：嵩 和雄 氏（認定NPO法人ふるさと回帰支援センター 副事務局長）

近年、地方移住のファッション化が進んでいる。そして、移住相談会・セミナーの競争が激化した結果、過度なKPIが地方創生ビジネスの食物になっている。移住には様々な形がある。UIターン以外にも、孫ターン、Xターン、嫁ターンなど。この中でもIターンは地域にゆかりのない人が地方に住むことになる。移住支援と定住支援は分ける必要がある。首都圏近郊でも移住政策を始めた自治体が多い。「引越し」と「移住」の違いが曖昧になっている。引越しとは、「住む場所を変えること」であり、移住は「生活スタイルを変えること」である。移住先に自然環境を求める人より、就労の場を求める人が増えてきている。ふるさと回帰支援センターの問い合わせ・来訪者は右肩上がりに増えている。特に地方創生が始まった2014年は爆発的に増加している。

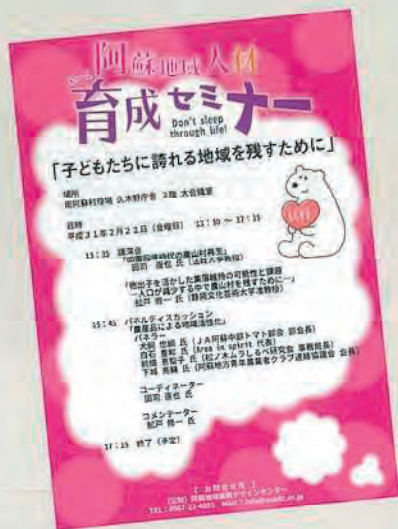


## 2 「他出子を生かした集落維持の可能性と課題 人口が減少する中で農山村を残すために」

講師：静岡文化芸術大学准教授 船戸 修一 氏

これからの集落を支えるのは血縁である。しかし、デリケートな問題であるため、親子間で意思の疎通ができていない。他出子は帰郷意思はあるが、帰郷が実現しなかった時のプレッシャーから帰郷意思を親や集落に断言しない。気持ちとしては帰郷したいが、仕事や結婚の影響で、未定または不可能な場合が多い。これは、親子間のコミュニケーション不足からくる問題。他出子の帰郷願望を醸成できれば帰郷が実現する可能性も大きくなる。他出子の帰郷意思を醸成するため、集落と関わり続ける仕組みを創造する必要がある。他出子が地域との関わりを増やせるような取り組みを行なっている。

(注) 集落を出た子供を他出子と定義





## 「ずーっと住み続けられる 阿蘇づくりをめざして」

平成30年の春は「あそフラワーツーリズム(あそ花旅)」からスタートしました。阿蘇地域の桜の名所と、前年度に、くまもと里モンプロジェクト推進事業の補助を受け、植栽したチュウリップを巡り、スマートフォンを使って、スタンプを集める新しい形の「スタンプラリー」を実施。この取組みは、総務省の行政評価局、里モン事業の優良事例として、紹介されました。阿蘇を訪れるコンテンツとして、このスタンプラリーは春と秋に定着化を企画し、今年の春にも実施しています。

公益事業の取組みの一つである「人材育成事業」では、昨年度4回のセミナーを開催、参加者は延べ214名、このセミナーの報告書をまとめ、関係機関等に配布しました。各地域での課題を探り、地域づくりを実践する人づくりも大切と考えています。時代の変化を受けて、ずーっと住み続けられる阿蘇づくりを推進することをめざしていきます。



(公財)阿蘇地域振興デザインセンター  
理事長 高橋 周二

## 「全力投球！」

今秋のラグビーワールドカップを皮切りに、世界女子ハンドボール選手権開催。そして2020東京オリンピックと一連の国際的なスポーツイベントが目白押しです。また2025年には大阪万博開催も予定されています。阿蘇くじゅう観光圏のDMO(プラットホーム)である当財団では「火山と草原文化」という地域固有のブランドを世界に問う絶好の機会と捉え、ツーリズムEXPOへの出展や滞在コンテンツの充実などを計画しています。

また、人口減少社会への対応として、ターゲットを絞り込んだ移住定住への対応策や阿蘇の地域産業を担う関係団体との連携や地域振興に関するセミナーなども継続して行って参ります。

なお、私事ですが、「事務局長評価委員会」の審査を受け、昨年11月の理事会で向こう3年間の続投が承認されました。事務局長として集大成の期間だと受け止め「全力投球」致します。



(公財)阿蘇地域振興デザインセンター  
事務局長 江藤 訓重



佐藤 光弘

昨年西原村から派遣でデザインセンターに勤務させて頂きましたが、個人と地元自治体の都合で元の勤務地に帰る事になりました。DCでの仕事は難しい単語の勉強と新鮮なイベントへの参加でした。こちらでの収穫は多くの人との繋がりと体重が増えたことです、又色んな体験をさせて頂き、特に大学生と一緒にコラボしたイベントは地元では味わえなかった経験でした。また各自自治体でDCへの期待感の違いを感じました。地元に戻ってもこの1年の経験と人の繋がりを大事にしてDCと関わって行きたいと思ひます、お世話になりました。



西原村にもどります

Thank you so much

たくさんの人の繋がりができました

長浜 光平

この度、3年間の派遣期間を終えて、産山村に戻ります。在任中は、大変お世話になりました。ありがとうございました。阿蘇地域振興デザインセンターに来て、それまで知らなかった阿蘇地域の魅力に気づかされました。また、自分が暮らす場所を“村”と見るのではなく、阿蘇という“地域”として見つめる視点を持つことができました。派遣から間もなく熊本地震が発災し、“復興”が私たちの大きな課題となりました。阿蘇地域はまだまだ復興の途上にあります。産山村に戻ってからも、先見性と広い視野を持って、じっくりと確実に歩を進めながら、未来を創るような仕事をしたいと志します。これからもよろしくお願いいたします。



産山村にもどります

Thank you so much

知らなかった阿蘇の魅力にも気づきました!

## NEW FACE

倉田 英之

西原村から派遣されました倉田英之です。入庁以来、初めて役場外で仕事をさせていただくこと、観光・地域振興という初めての分野の業務をさせていただくことに、年甲斐もなくドキドキしています。不安もありますが、毎日阿蘇の路をドライブしながら通勤できることを楽しみにしているところです。熊本地震から3年が経過しようとする中、私どもの村も復興に向けて全力で頑張っています。これからは、阿蘇地域全体が益々元気になれるよう、微力ではありますが、楽しみながら精いっぱい頑張りたいと思ひますのでよろしくお願いいたします。



西原村からきました!

阿蘇地域が益々元気になるよう頑張ります!

## NEW FACE

鞭馬 隆善

このたび南小国町から派遣されました鞭馬隆善です。役場では4年間福祉課に勤務しておりました。福祉の事なら少し自信が持てるようになったところですが、観光やまちづくり等は全く経験のない分野のため、不安でいっぱいです。1日でも早く仕事を覚え、阿蘇地域の復興・活性化のために活動できるよう頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。



南小国町からきました!

1日でも早く仕事を覚え活動していきたいです



公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

〒869-2612

熊本県阿蘇市一の宮町宮地4607番地1

TEL 0967-22-4801 FAX 0967-22-4802

http://www.asodc.or.jp

